

文化施設減免制度に関する利用団体等ヒアリング(結果概要)

1 日時

令和6年3月30日(土)10:00～11:05

2 場所

中央公民館大ホール

3 参加者

16団体35名

4 会議概要

(1) ヒアリング

(団体A)

せせらぎでスポーツをしている代表者である。利用者の意見を聞いてもらうことに感謝している。5年前のアンケート実施から関わり合いがあり、何度も意見を表明している。何度もせせらぎ所長や市民参画課長と話し、進捗状況を聞くと、「何も決まっていない。まだまだ先のこと。決まったらじっくり話す」との回答で、市からの答えを待ち続けてきた。

5年前のアンケートでは、減免率や減免措置があることについて、妥当・適当の回答が多く、冷暖房費についてもほぼ同じという結果である。市は、「減免団体からすると当たり前だ」と考えているかもしれない。2021年の中央公民館でのヒアリングにも参加した。これに対する答えやどう思うかの回答は？2022年に企画調整室が実施したパブリックコメントでも「現状維持がいい」と回答した。

今日出てきた意見に対して今日答えなくてよいが、これまで5年間で意思表示をしてきたことに対する答えはないのか。

(市)

何度も話してきた方もおられるが、今日は初めての人からも意見を聞きたい。できるだけ多くの人から意見を聞いて帰りたい。

(団体A)

5年間やってきたことや考えたことは言えないということか。

(市)

お示しする機会は今後ある。今日はその機会ではない。

(団体A)

今後あるのか。

(市)

案を示す機会はある。

(団体A)

意見交換をできる機会があると分かった。

(団体B)

ミライロ(南部まちづくりセンター)でサークル活動をしているが、使用料が高い。なぜミライロでは減免されないのか。中部や社協は無料で使わせてもらっている。せせらぎでは音楽関係の教室を開催し、会員同士で教えている。子育て世代の負担を減らすため、安い値段でやりたい。

(団体B)

北部、中部を利用している。5年前のアンケートには、減免にしてほしいと回答した。現状維持の意見があったということなど、お知らせされていない。お聞きしたい。

(市)

質問・答弁をする会ではない。減免継続してほしい、無料でおいてもらいたいなど、今日は広く真摯に意見を聞く会だ。

(団体B)

中央公民館は住民センターも同じだと思うが、社会教育法に基づいて作られている。社会教育法第3条に「地方公共団体は、すべての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら実際生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するように努めなければならない」と規定されている。減免制度で安価で利用し、私たちの団体では体操や文化関係のいろんなサークルを作れた。会員の中から学んだ人が講師をしている。材料費は別途かかるが、会費は百円程度でやっている。減免制度がなくなれば会費が高くなり、利用が難しくなる。施設の維持費は地方自治体の仕事である。

私たちの団体は若い人も高齢者も一緒にやっている。若い人からの意見をあずかってきた。「塾に通うと負担が大きい。しかし、ここは元教職員によって月数百円で全ての子が平等に気楽に学べる場所である。減免を強く望む。」

個々の横の交流がなくなっている。登録団体は役員を決めてやっていて大変だが、交流の機会である。減免制度をなくさないでほしい。

(団体C)

音楽をしている。会員数が減少して半分になり、お金が厳しい。減免で助かっている。冷暖房はかかるが半額で嬉しい。

団体Bにも入っていて、若い人の意見をあずかってきた。「北部での1レッスン数百円で音楽に親しんでいる。音符が読めなくて困っている児童がいるため、サークルを立ち上げた。

北部では本物の楽器に触れられる。低価格で質の高いレッスンが受けられる。ぜひ引き続き市民活動を支援してほしい。」

(団体D)

1つめは、減免制度について、私たちの団体は現役を退職した高齢者の団体で5団体を登録、せせらぎには9つのサークルがある。ひとりぼっちの高齢者を作らない、高齢者の日々の生活を生き生きとするために活動している。減免には大変感謝しており、高齢者の社会参加に貢献している。京田辺に住んでいて良かったと思える施策の1つ。年金生活は厳しく、減免制度を維持してほしい。有料になると参加が減るのは目に見えており、健康を害する人が増えることにつながり、医療費出費に影響する。市職員も退職した時に、減免を残しておいて良かったと実感されるのではないか。

2つめは、ヒアリングの周知方法について。今回の減免ヒアリングの通知は施設の看板だけであった。団体への通知がないのは、ヒアリングに来て欲しくないのではと感じた。今後は団体へ文書で通知がほしい。

(団体E)

退職するまで地域でのつながりがなかった男性にとって、地域でのつながりや近くにサークルがあり、京田辺に住んで良かったと思っている。減免制度で市財政から援助していることは意義があることと思う。

市民文化祭はこれまで無料であったが、去年から出店料の負担があり出店をやめた。有料化では活動が制限され、または会費アップにつながる。市財政のありかた、市政が残念な方向に向かうと思う。今の減免制度を堅持してほしい。

(団体A)

高齢者だけではなく、現役世代も苦しい。スポーツ用具は値上がりしている。他は会費を倍にしたりサークルを辞めているところもある。せせらぎでは会費を安くできていて感謝している。市民が運動することが健康増進につながり、病気にならず保険料が上がらない。社会全体としてお金の節減である。人生の楽しみを継続するためにも減免を継続してほしい。

(団体F)

月2回せせらぎ音楽室を利用。参加者は15～20人。楽器があり、サークル専属の講師がいる。参加者は数百円で、そこから講師への謝礼や活動費としている。減免には感謝しており、減免制度を継続してほしい。

(団体G)

100%減免で使用しており市民からしたら減免制度があった方がいいと思うが、行政改革の視点から受益負担は必要と思う。市は使わない人の公平感を言っているのだと思う。減免見直しをするときには、減免しなかったらいくらかなど実績を示してほしい。半額になるのも仕方ないと思うが、都度お金を窓口で払うのは大変。減免を廃止される方向なら、現金ではなくして前払いや請求書払い、また、デジタル化も一緒に考えてほしい。

(団体D)

北部の職員に減免がいつから始まったか聞いたら、「いつからか分からない」と回答された。減免制度は随分前からあり、制度が定着している。公民館や住民センターは、本来は無料で使えるような場所にしたら良いと思う。そのような考えから減免制度ができたと思う。なぜこの時期に減免をなくすのか？年金は減らされている。減免をなくすのはおかしい。減免を続けてほしいと強く思う。

また、地元の公民館は来月4月から有料化されるため、北部で減免制度を利用する。

(団体G)

減免制度をなくすなら、サークルに対する助成金制度を作ることも1つの方法だと思う。

(団体A)

1つめとして、冷暖房について。2021年のヒアリングのときに3所長は、「冷暖房を使用料に含み通年徴収することが全国的に多数」と言っていた。私たちの団体では冷暖房は半額となるが、オプションなので使っていない。他のスポーツサークルから、田辺中央体育館では冷暖房は使用料に含んでいると聞いている。田辺中央体育館が高くて使えなくなり、また、2面ではとれず、3面単位以上でとらないといけない。料金や単位から、他市へ行っているようだ。

2つめとして、減免が見直されたら、せせらぎまつりへの協力について抜けると言っているサークルがある。

3つめとして、12時～13時は使えない。3日前になると、とれなくなる。しかし、他の体育館はとれる。使いにくい部分についても検討を。

4つめとして、学校のグラウンドや体育館(学校施設開放)はタダであるが、市として有料化を進めようとしているのか？

ここに来られない人の意見として、

- ・スポーツ用具が高く財政難。
- ・せせらぎは小さいサークルでも使えるが、まつりへの協力は少人数だとしんどい。
- ・1面借りのニーズがある。少人数にも配慮してほしい。
- ・市民の生涯学習の観点から、安い値段で。

- ・公共の観点から減免を検討してほしい。
- ・提案するなら数字で出してほしい。

(団体H)

1つめとして、減免を継続してほしい。高齢化が進み、会員減少。

2つめとして、文化祭の内容が30%減少した展示になった。費用の点で減少したのではないか。費用の面で援助してほしい。